

臨牀 消化器内科
第 40 卷 ● 総目次
Vol. 40 / No. 1 ~ No. 13
(2025 年 1 月号 ~ 12 月号)

特 集

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|-----------------------|
| No. 1 | 上部消化管内視鏡を見直す—基本から応用まで | No. 8 | 膵疾患の診療〔増刊号〕 |
| No. 2 | ここまで進んだ interventional EUS | No. 9 | 肝硬変—最新の治療 |
| No. 3 | 慢性便秘症の診療のポイント | No. 10 | ヘリコバクター・ピロリ診療 update |
| No. 4 | 注目すべき高齢者の腹部救急疾患診療 | No. 11 | 腸内細菌研究の最前線—社会実装へ向けて |
| No. 5 | 膵・消化管神経内分泌腫瘍の診療アップデート | No. 12 | 肝疾患治療の最新動向—新薬の情報とともに |
| No. 6 | 胆嚢ポリープ・腺筋腫症, 胆嚢良性疾患の診断と治療 | No. 13 | 咽頭・喉頭病変の内視鏡診断と治療 |
| No. 7 | 肝硬変—病態と診断の最新知見 | No. 13 | (休刊記念)臨牀消化器内科 40 年の歩み |

● Vol. 40 No. 1 上部消化管内視鏡を見直す
—基本から応用まで

巻頭言—本特集を企画するにあたって

- | | | |
|------------------------------------|--|-------|
| | 角嶋 直美 | 5~6 |
| 1. 上部消化管内視鏡の quality indicator とは? | 魚住 健志・関口 正宇
楠原 光謹・水口 康彦
野中 哲・阿部清一郎
斎藤 豊 | 7~13 |
| 2. 咽・喉頭領域における腫瘍性病変の拾い上げから質的診断まで | 石山晃世志 | 15~21 |
| 3. 食道腫瘍性病変の拾い上げ診断—非拡大観察において | 飯塚 敏郎 | 22~28 |
| 4. 食道腫瘍性病変の質的診断 | 谷 泰弘・石原 立 | 29~33 |

- | | | |
|---|---|-------|
| 5. 食道非腫瘍性疾患の拾い上げ診断から質的診断まで—逆流性食道炎・好酸球性食道炎・Barrett 食道・薬剤性/腐食性食道炎・食道カンジダ症・食道静脈瘤 | 北村 陽子・澤 貴幸
岡本 直樹・岸埜 高明
奥田 隆史・金政 和之 | 34~42 |
| 6. 食道胃接合部領域における腫瘍性病変の拾い上げから質的診断まで | 栗林 志行・田中 寛人
都丸 翔太・佐藤 圭吾
竹内 洋司・浦岡 俊夫 | 43~49 |
| 7. 胃腫瘍性病変の拾い上げ診断—非拡大観察について | 濱本 英剛・都甲 大地
鈴木 隆太・名和田義高
五十嵐公洋・松田 知己 | 50~56 |
| 8. 胃腫瘍性病変の質的診断 | 三角 宜嗣・野中 康一 | 57~64 |

9. 胃非腫瘍性疾患の拾い上げ診断から質的診断まで	長尾宗一郎・森田 周子 藪内 洋平・山下 大祐 原 重雄	65～75	鈴木 彬実・富嶋 享 石井 重登・伊佐山浩通	186～193
10. 十二指腸病変の拾い上げ診断から質的診断まで	赤澤 陽一・上山 浩也 八尾 隆史・永原 章仁	77～86	8. 急性膵炎後局所合併症に対する EUS 下ドレナージ	
11. 上部消化管内視鏡スクリーニングにおける AI の役割	松村 倫明・沖元謙一郎 加藤 順・加藤 直也	87～96	向井俊太郎・糸井 隆夫	194～202
12. 上部消化管腫瘍の質的診断における AI の役割	貝瀬 満・樋口 和寿 後藤 修・岩切 勝彦	97～104	9. 胆管挿管困難例に対する EUS 下ランデブー法	
13. 内視鏡で消化管運動機能を診る一内視鏡的 内圧測定統合システム (EPSIS) について	西川 洋平・井上 晴洋 牛久保 慧・山本 和輝 田中 一平・田邊 万葉	105～111	白田龍之介	203～209
●Vol. 40 No. 2 ここまで進んだ interventional EUS			10. 術後腸管症例における胆管結石に対する EUS 下治療	
巻頭言—Interventional EUS—回想と展望	安田 一郎	133～135	佐藤 達也・野口 賢作 石垣 和祥・齋藤 友隆 高原 楠晃・藤城 光弘	210～216
1. EUS-FNA と interventional EUS の手技の歴史	上村 真也・岩下 拓司 清水 雅仁	136～141	11. 膵腫瘍に対する EUS 下焼灼療法	
2. Interventional EUS の機器・処置具の進歩	奥野のぞみ・原 和生	142～148	松本 和幸・加藤 博也 藤井 祐樹・内田 大輔 堀口 繁・大塚 基之	217～226
3. EUS-FNA の病理診断の現状	池田恵理子・菅野 敦 安藤 梢・横山 健介 福嶋 敬宜・山本 博徳	149～158	12. 胃十二指腸閉塞に対する EUS 下胃空腸吻合術	
4. EUS-FNA 検体を用いた遺伝子パネル検査	小森 康寛・脇岡 範 永塩 美邦・原井 正太 奥坂 拓志	159～167	土屋 貴愛・殿塚 亮祐 向井俊太郎・永井 一正 山本健治郎・糸井 隆夫	227～236
5. 悪性胆道閉塞に対する EUS-BD	小倉 健・右馬 悠輝 別所 希美・服部 頌紘 松野 潤	169～177	13. 肝疾患および合併症に対する EUS 診療： Endo-hepatology	
6. 急性胆嚢炎に対する EUS-GBD	松原 三郎・新井 智洋 池田 守登・須田健太郎 名越 澄子	178～185	稲葉 康記・永島 一憲 山宮 知・Rafael Romero-Castro 入澤 篤志	237～244
7. EUS 下膵管ドレナージ	藤澤 聡郎・高崎 祐介		14. Interventional EUS 教育の現状	
			岩井 知久・木田 光広 奥脇 興介・渡辺 真郁 安達 快・草野 央	245～251
			●Vol. 40 No. 3 慢性便秘症の診療のポイント	
			巻頭言—本特集を企画するにあたって	
			山道 信毅	269～270
			1. 慢性便秘症の定義・分類・診断基準	
			三澤 昇・中島 淳	271～276
			2. 慢性便秘症の疫学—日本/世界	
			小林由美恵・大谷 恒史	277～281
			3. 慢性便秘症の発症リスク, QOL, 長期予後への影響	
			富田 寿彦・新崎信一郎	283～289
			4. 慢性便秘症の病態	
			伊原 栄吉・田中 義将 竹島 翼・白 曉鵬 蓑田 洋介・荻野 治栄	291～297
			5. 慢性便秘症の診療	
			(1) 問診, 診察と基本検査	
			水上 健	299～307

(2) 特殊検査	前田 孝文	308～314
6. 慢性便秘症の治療		
(1) 浸透圧性下剤, 刺激性下剤, 膨張性下剤の特徴と使い分け	津田 桃子	315～320
(2) 粘膜上皮機能変容薬, 胆汁酸トランスポーター阻害薬の特徴と使い方	山本さゆり・脇田 嘉登 小笠原尚高	321～330
(3) 消化管運動機能改善薬, プロバイオティクス, 漢方薬の使い方	尾高 健夫・富永 和作	331～338
(4) 非薬物療法		
① 生活習慣と摘便, 坐剤, 浣腸, 経肛門的洗腸療法	本間 祐子・味村 俊樹	339～346
② 心理療法, バイオフィードバック療法	高野 正太・宮崎 博喜	347～353
7. 薬剤性便秘の診断と治療	結束 貴臣・石原 洋 高橋 宏太・中島 淳	355～362
8. 慢性便秘症に対する外科的治療	河原秀次郎	363～367

●Vol. 40 No. 4 注目すべき高齢者の腹部救急疾患診療

巻頭言—高齢者医療とは	吉田 雅博	387～388
[用語解説] アドバンス・ケア・プランニング(ACP)	吉田 雅博	389

1. 内科の視点から		
(1) 高齢者の急性腹症に対する緊急消化管内視鏡	森瀬 貴之・福澤 誠克 糸井 隆夫	390～394
(2) 高齢者の胆管結石・胆管炎に対する内視鏡治療戦略	中井 敦史・竹中 完 工藤 正俊	395～402
(3) 高齢者の炎症性腸疾患に対する薬物療法	櫻井 俊之・猿田 雅之	403～410
2. 内科・外科の視点から		
(1) 高齢者の上部消化管穿孔に対する保存的治療	産本 陽平	411～415
(2) 高齢者の閉塞性大腸癌に対するステント治療	斉田 芳久	416～424
3. 外科の視点から		
(1) 高齢者における急性胆嚢炎の外科治療	青木 優	425～433

(2) 高齢者の大腸穿孔に対する外科的治療戦略	寺本 賢一・山下 裕玄 服部 桜子・岩田 亮平 萩原 謙・岡村 行泰	434～440
(3) 高齢者における緊急性の高い大腸癌外科治療戦略	康 祐大	441～448
4. 救急の視点から		
(1) 高齢患者における Acute Care Surgery の特徴	小山 知秀	449～455
(2) 高齢者の「急性腹症診療」に関する話題—急性腹症診療ガイドラインを引用して	前田 重信	456～460
(3) 高齢者の腹部救急疾患の「Oncologic emergency」のトピックス	柴田 昌彦・佐瀬善一郎 矢澤 貴・井上 典夫 高田 信・河野 浩二 竹之下誠一	461～468
5. 在宅救急の視点から		
(1) Oncologic emergency(腫瘍緊急)の対応	小豆畑丈夫	469～475
(2) 高齢在宅患者の腹部救急の実態—在宅医療における多職種連携	横山 卓・小島 正幸	476～480

●Vol. 40 No. 5 膵・消化管神経内分泌腫瘍の診療アップデート

巻頭言	伊藤 鉄英	499～501
1. 膵・消化管神経内分泌腫瘍の病理診断	大池 信之・野呂瀬朋子 角田 優子・杉野 隆 立石 敬介	502～512
2. 膵神経内分泌腫瘍の画像診断—US, CT, MRI	田畑 公佑・藤田 展宏 牛島 泰宏・岡本 大佑 石松 慶祐・石神 康生	513～518
3. 膵神経内分泌腫瘍に対する EUS 診断および EUS-FNA	小森 康寛・脇岡 範 永塩 美邦・原井 正太 奥坂 拓志	519～525
4. 消化管神経内分泌腫瘍の画像診断—内視鏡	田中 努・原 和生	526～533
5. 膵・消化管神経内分泌腫瘍の画像診断—SRS, FDG-PET	田中 寛彬・中本 裕士	534～540

6. 機能性膵・消化管神経内分泌腫瘍の病態と診断	河本 泉	541～545	6. 胆嚢腺筋腫症の病理	吉澤 忠司	648～653
7. 高分化型膵神経内分泌腫瘍の外科的治療	青木 琢	546～552	7. 黄色肉芽腫性胆嚢炎の診断と病理	村上 圭吾・古川 徹	654～658
8. 低分化型膵神経内分泌腫瘍の外科的治療	工藤 篤・浅野 大輔 勝田絵里子・伴 大輔	553～559	8. 胆嚢・胆管の形態異常—腹腔鏡下胆嚢摘出術 において注意すべき解剖学的変異	清水 敦・佐田 尚宏	659～663
9. 消化管神経内分泌腫瘍に対する内視鏡的治療	吉永 繁高・関口 正宇 阿部清一郎・野中 哲 斎藤 豊・橋本 大輝	560～565	9. まれな胆嚢良性疾患		
10. 消化管神経内分泌腫瘍に対する外科的治療	柴田 近・中野 徹 辻仲 眞康	566～570	(1) 胆嚢消化管瘻	飯田 敦・佐藤 里咲 田中 楓・大西 顕司 戸川 保・木村 俊久	665～668
11. 消化管神経内分泌腫瘍に対する薬物療法	平野 秀和	571～575	(2) 胆嚢軸捻転・胆嚢虚血	加藤 厚・賀川 真吾 柳橋 浩男・有光 秀仁 石毛 文隆・岩立 陽祐	669～673
12. 膵神経内分泌腫瘍に対する薬物療法	村上 正俊・藤森 尚 松本 一秀・植田圭二郎 伊藤 鉄英・小川 佳宏	576～583	(3) 胆嚢損傷, 胆嚢外傷, 胆嚢穿孔	石川 博人・村井 麻衣 藤崎 正寛・内野 馨博 甲 拡子・竹中 美貴 岸本 幸也・緒方 敏郎 岡部 正之	675～679
13. 膵・消化管神経内分泌腫瘍に対する放射性リ ガンド療法の現状	今岡 大・加納 大輔 鈴木 秀隆・湯之原 絢 鈴木 牧子・池田 公史	584～590	●Vol. 40 No. 7 肝硬変—病態と診断の最新知見		
14. 「膵・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドライ ン」第3版の改訂へ向けて	増井 俊彦	591～594	巻頭言	寺井 崇二	707
●Vol. 40 No. 6 胆嚢ポリープ・腺筋腫症, 胆嚢良性疾患の診断と治療			1. 病態理解		
巻頭言—胆嚢疾患診療の難しさ	安田 一朗	611～612	(1) 肝線維化・肝硬変の進展	土屋 淳紀	708～714
1. 胆嚢ポリープの分類・診断・治療	山崎 友裕・竹中 完 大本 俊介・鎌田 研 三長 孝輔・工藤 正俊	613～619	(2) 病理像の特徴	原田 憲一	715～722
2. 胆嚢ポリープの画像診断	青井 広典・石川 卓哉 山雄健太郎・水谷 泰之 飯田 忠・川嶋 啓揮	620～626	(3) 肝線維化進展に伴う血管系変化, リンパ管 変化	岩切 泰子	723～728
3. 胆嚢非腫瘍性ポリープの病理	能登原憲司・浅田 昌紀	627～635	2. 疫学・予後		
4. 胆嚢腺筋腫症の分類・診断・治療	潟沼 朗生・金 俊文	636～641	(1) 肝硬変の病態・疫学—近年の傾向や移行期 医療としての FALD も含めて	西川 浩樹・金 秀基 朝井 章	729～736
5. 胆嚢腺筋腫症の画像診断	高山 幸久・田中 慎二 佐藤 圭亮・後藤 和貴 本田 学・吉満 研吾	642～647	(2) 肝硬変症の予後	八橋 弘	737～743
			(3) Acute-on-chronic liver failure (ACLF) —診断, 予後, 新規治療の可能性	持田 智	744～749
			3. 診断・評価		
			(1) 肝硬変診療のガイドライン—とくに診断 について	芝本 彰彦・浪崎 正 吉治 仁志	751～757

(2) 線維化マーカー，進展推移のバイオマーカーの可能性—Baveno criteria に基づくHVPG の意義	小谷 晃平・河田 則文	758～763
(3) AI による肝疾患診療の現状と展望—肝硬変症の診断と予後予測	中塚 拓馬・建石 良介	764～771
(4) 超音波エラストグラフィによる非侵襲的肝線維化評価と臨床応用—MASLD における意義	黒田 英克	772～779
(5) MR エラストグラフィによる画像診断，肝硬度測定	今城 健人・米田 正人 中島 淳	780～787
(6) 超音波内視鏡(EUS)を用いた門脈圧較差の測定	山宮 知・入澤 篤志 稲葉 康記・永島 一憲 Rafael Romero-Castro	788～794
●Vol.40 No.8 膵疾患の診療		
第1部 炎症性疾患		
総 論		
膵炎の疫学		
	菊田 和宏・正宗 淳	822～825
I. 急性膵炎		
1. 発症機序・重症化機序	眞嶋 浩聡・小島 柊 関根 匡成	826～831
2. 重症度判定	辻 喜久	832～838
3. 初期治療	白井 邦博	839～844
4. 局所合併症に対する内視鏡治療	中井 陽介・白田龍之介 島松 裕・大塚 奈央 高山 敬子	845～851
5. 局所合併症に対する外科治療	種村 彰洋・飯澤 祐介 村田 泰洋・栗山 直久 岸和田昌之・水野 修吾	852～858
6. 長期予後	羽田 綾子・上野 真行 平松 香里・石田 悦嗣 毛利 裕一・水野 元夫	859～863
7. 「ERCP 後膵炎ガイドライン 2023」改訂のポイント	向井俊太郎・糸井 隆夫	864～872

II. 慢性膵炎		
1. 「慢性膵炎臨床診断基準 2019」改訂のポイント	山宮 知・入澤 篤志	874～882
2. 小児の膵炎	中野 聡・鈴木 光幸	883～888
3. 画像診断—EUS エラストグラフィを含めて	大野栄三郎	889～894
4. 膵外分泌機能不全	藤森 尚・末永 顕彦 松本 一秀・村上 正俊 植田圭二郎・小川 佳宏	895～901
5. 薬物療法	堀 寧・内藤 格 林 香月	902～908
6. 膵性糖尿病	柳町 幸・中村 遼馬 山一 真彦・松本 敦史 丹藤 雄介・中村 光男	909～913
7. 内視鏡的治療	伊藤 謙・齋藤 倫寛 山田 悠人・田島 慎也 栗原 昌孝・渡邊 学	914～919
8. 外科治療	亀井 敬子・登 千穂子 吉田 雄太・村瀬 貴昭 武部 敦志・松本 逸平	920～925
9. 長期予後	松本諒太郎・菊田 和宏 滝川 哲也・正宗 淳	926～931
III. 自己免疫性膵炎		
1. 病態と診断マーカー	三長 孝輔・原 茜 大丸 直哉・吉川 智恵 鎌田 研・渡邊 智裕	934～941
2. 診断基準と活動性指標	内田 一茂・山本 翔太 常風 友梨・谷内 恵介	942～948
3. 2型自己免疫性膵炎	能登原憲司	949～955
4. 画像診断，病理診断	内藤 格・中沢 貴宏 吉田 道弘・能登原憲司	956～963
5. 治 療	池浦 司・高折 綾香 中丸 洸・伊藤 嵩志 榊田 昌隆・中山 新士	964～970
6. 長期予後	栗田 裕介・窪田 賢輔	

第2部 腫瘍性疾患	長谷川 翔・細野 邦広 中島 淳	971～976
IV. 膵 癌		
1. 「膵癌診療ガイドライン 2022 年版」改訂のポイント	阿部 俊也・中村 雅史	978～985
2. 「膵癌取扱い規約」第8版改訂のポイント	酒井 彩乃・藤井 努 里井 壯平・福嶋 敬宜 平林 健一・海野 倫明	986～993
3. 分子病理学	古川 徹	994～1003
4. 膵癌の疫学と危険因子	山雄健太郎・石川 卓哉 水谷 泰之・飯田 忠 植月 康太・川嶋 啓揮	1004～1008
5. 血液検査・バイオマーカー	高橋 賢治・小野 裕介 岡田 哲弘・河端 秀賢 藤谷 幹浩・水上 裕輔	1009～1016
6. 画像診断	川路 祐輝・蘆田 玲子 田村 崇・山下 泰伸 糸永 昌弘・北野 雅之	1017～1022
7. 外科手術	刑部 弘哲・末松 友樹 松本 萌・西山 航平 金沢 景繁・永川 裕一	1023～1030
8. 化学療法	小林 智・戸塚雄一朗 福島 泰斗・上野 誠	1031～1035
9. 内視鏡的治療	藤田 曜・水出 雅文 谷坂 優樹・地主 龍平 渡邊 隆一・良沢 昭銘	1036～1045
10. 放射線治療	伊藤 芳紀	1046～1052
11. 支持・緩和療法	高山 敬子	1053～1059
12. 膵癌診断における AI 技術の臨床応用	増田 充弘・祖父江慶太郎 平原 暢之・小笠原 彩 村上 卓道・児玉 裕三	1060～1064
V. その他の膵腫瘍		
1. IPMN の診療方針	大塚 隆生・福田 皓祐 大井 秀之・富田 実代 保坂 優斗	1066～1070

2. IPMN からの発癌	高原 楠晃・大山 博生 濱田 毅・貝發 美香 丹下 主一・藤城 光弘	1071～1074
3. 膵神経内分泌腫瘍	岡本 浩平・脇岡 範	1075～1082
4. 膵腺房細胞癌	登 千穂子・吉田 雄太 村瀬 貴昭・亀井 敬子 武部 敦志・松本 逸平	1083～1086
5. SPN, MCN, SN および他の膵腫瘍	山田 玲子	1087～1095
●Vol. 40 No. 9 肝硬変—最新の治療		
巻頭言	寺井 崇二	1103
1. 治療介入		
(1) ウイルス性肝硬変の治療(HCV, HBV)	田畑 優貴・竹原 徹郎	1104～1110
(2) MASH 由来肝硬変とアルコール関連肝硬変の治療の違い	池嶋 健一	1111～1115
(3) 栄養療法	徳本 良雄・日浅 陽一	1116～1124
(4) サルコペニアと肝臓リハビリテーション	橋田 竜騎・中野 暖 戸次 鎮宗・天野 恵介 松瀬 博夫・川口 巧	1125～1131
(5) 高齢者の肝硬変の治療介入の注意点	名越 澄子	1132～1138
(6) 肝硬変に対する移植治療—適応, 治療の現状, 今後	裏 成寛・赤松 延久 長谷川 潔	1139～1145
2. 合併症の治療と対策		
(1) 合併症(脳症・腹水など)の管理—薬物療法を中心に	宇野女慎二・三輪 貴生 清水 雅仁	1147～1156
(2) 合併症(食道胃静脈瘤など)の管理—内視鏡・IVR を中心に	石川 剛・高見 太郎	1157～1164
(3) 門脈血栓症と血小板減少症の病態と治療	日高 央・岩崎秀一郎 草野 央	1165～1172
(4) 臓器相関(肝肺相関)	厚川 正則	1173～1179
3. 次世代治療, 技術の可能性		
(1) 肝線維化改善, 再生療法—線維化治療剤の開発状況を踏まえて	阿部 寛幸・寺井 崇二	1181～1189

(2) 肝発癌予防薬の可能性	藤原 直人・中川 勇人	1190～1196
●Vol. 40 No. 10 ヘリコバクター・ピロリ診療 update		
巻頭言	徳永 健吾	1211～1212
1. <i>H. pylori</i> 関連疾患のパラダイムシフト	竹田 努・赤澤 陽一 上山 浩也・永原 章仁	1213～1223
2. <i>H. pylori</i> 感染の診断と治療のガイドライン—2024 改訂版の変更点	下山 克	1224～1230
3. <i>H. pylori</i> 保険診療の課題を紐解く	古田 隆久	1231～1236
4. 新たな <i>H. pylori</i> 診断法—胃内液を用いた核酸増幅(PCR)法	加藤 元嗣・津田 桃子 松本 美櫻・加賀谷英俊 江原 亮子	1237～1242
5. ピロリ菌専門外来の実際	小野 尚子	1243～1248
6. <i>H. pylori</i> 薬剤耐性の現状—JANIS データを含めて	柴山 恵吾	1249～1253
7. 高齢者の除菌療法	河合 隆・岩田 英里 張 萌琳・新倉 量太 永田 尚義・柳澤 京介 杉本 光繁	1254～1260
8. 若年者除菌の今後の展開	半田 修・梅垣 英次 塩谷 昭子・内藤 裕二	1261～1267
9. <i>H. pylori</i> 感染胃炎と自己免疫性胃炎の関連性	伊藤 公訓	1268～1272
10. <i>H. pylori</i> 感染症と NHPH 感染症の相違	塚平 俊久・小林奈津子 吾川 弘之・小平日実子 太田 浩良	1273～1281
11. <i>H. pylori</i> 関連疾患と胃内マイクロバイオータの新展開	平井 美和・鈴木 秀和	1284～1288
〈トピック〉胃の病原菌である <i>H. pylori</i> 菌以外のヘリコバクター属菌(NHPH)の感染率などの実態を解明	徳永 健吾	1282～1283

●Vol. 40 No. 11 腸内細菌研究の最前線		
—社会実装へ向けて		
巻頭言—腸内細菌研究の最前線	藤谷 幹浩	1311～1312
1. 総 論		
(1) 腸内細菌叢による宿主の生理・病態への関与	大野 博司	1313～1318
(2) 小児期の腸内細菌叢の形成	赤川 翔平・金子 一成	1319～1325
2. 腸内細菌と疾患		
(1) 腸内細菌叢と炎症性腸疾患	三好 潤・小栗 典明 久松 理一	1326～1330
(2) 腸内細菌と大腸腫瘍	石川 秀樹	1331～1337
(3) 腸内細菌と肝疾患	富田 謙吾・穂苅 量太	1338～1343
(4) 腸内細菌と神経疾患—パーキンソン病	大野 欽司	1344～1349
(5) 腸内細菌と膠原病	米田 勝彦・三枝 淳	1350～1355
(6) 腸管内代謝を応用した肥満糖尿病の治療戦略	上村 瑞葵・入江潤一郎	1356～1362
3. 社会実装・リスク評価		
(1) 腸内細菌叢タイプと疾患	高木 智久・井上 亮 内藤 裕二	1363～1369
(2) 腸内細菌遺伝子マーカーによる消化器疾患のリスク評価とその臨床応用	藤井 匡・栃尾 巧 大野栄三郎・廣岡 芳樹	1370～1375
4. 社会実装・新規治療		
(1) 菌由来分子の臨床応用	小西 弘晃・藤谷 幹浩	1376～1382
(2) 生きた腸内細菌製剤の臨床応用	金 倫基	1383～1391
(3) 実装化に向けた潰瘍性大腸炎に対する腸内細菌叢移植療法	石川 大	1392～1399
●Vol. 40 No. 12 肝疾患治療の最新動向		
—新薬の情報とともに		
巻頭言	四柳 宏	1415
1. B型肝炎・D型肝炎—新規薬剤と今後の展望	鈴木 孝典・井上 貴子 田中 靖人	1416～1425
2. C型肝炎のSVR 後の課題と新規治療薬による今後の展望	内原 直樹・玉城 信治	1426～1432

3. 本邦の実態を踏まえた代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)診療—MASLD薬物療法における将来的な展望	芥田 憲夫	1433~1440
4. アルコール関連肝疾患—ハーム・リダクション補助薬を含めて	岩佐 元雄	1441~1448
5. 原発性胆汁性胆管炎・原発性硬化性胆管炎—薬物療法の現在と未来	小森 敦正	1449~1455
6. 自己免疫性肝炎・免疫チェックポイント阻害薬による肝障害	阿部 雅則	1457~1463
7. 肝硬変診療・治療の最新動向	土屋 淳紀	1465~1471
8. 肝細胞癌—新規薬剤による長期生存への期待	河野 豊	1472~1478
9. 肝移植 up to date	玄田 拓哉	1479~1486

●Vol. 40 No. 13 咽頭・喉頭病変の内視鏡診断と治療

1. 咽頭・喉頭領域における内視鏡的観察方法—スクリーニングと精査	菊池 大輔・山下 聡 鈴木 悠悟・早坂淳之介 布袋屋 修	1512~1519
2. 咽頭表在癌における疫学と癌発生のハイリスク患者	井上 雅貴・清水 勇一 小野 尚子・坂本 直哉	1520~1528
3. 咽頭領域で遭遇するBrownish areaの取り扱い方	ト部 祐司・岡 志郎	1529~1534
4. 耳鼻咽喉科から見た診断・治療における消化器内科との違い	渡邊 昭仁・木村 有貴	1535~1544
5. 咽頭表在癌の内視鏡診断	佐々木文郷	1545~1552
6. ESD とその他の治療	石山晃世志	1553~1559
7. 経口的手術後のフォローアップ	堅田 親利・加納 孝一 古江 康明・岸本 曜 富岡 利文・矢野 友規 林 隆一・武藤 学	1560~1565
8. 頭頸部表在性扁平上皮癌の切除検体の取り扱いと病理診断上の問題点	藤井 誠志	1566~1574

9. 下咽頭から頸部食道にまたがる表在癌の取り扱い	古江 康明・堅田 親利 田中 健丈・鈴木 統大 笹部真亜沙・依田 雄介 中條恵一郎	1575~1581
10. 頭頸部アルミノックス治療(光免疫療法)	岡本 伊作	1582~1587

●Vol. 40 No. 13 (休刊記念)臨牀消化器内科 40 年の歩み

1. 座談会—消化器診療の変遷と歩んだ 40 年	小池 和彦・杉山 正則 藤城 光弘	1590～1603
2. 特別寄稿：「臨牀消化器内科」40 年を振り返る		
「臨牀消化器内科」と歩んだ 18 年		
一内視鏡学からの証言	田尻 久雄	1604～1608
外科医として編集に携わって	市倉 隆	1609～1613
編集委員の 15 年を振り返って	五十嵐正広	1614～1617
本誌編集を通じた出会いと学び	一瀬 雅夫	1618～1621
編集委員の視点から見えた消化器内科臨床	屋嘉比康治	1622～1624
「臨牀消化器内科」の休刊を惜しむ		
一愛読者・査読者としての関わり	多田 正大	1626～1628
3. 消化器診療 40 年の進歩と次のステージ		
(1) 「臨牀消化器内科」の 40 年から振り返る		
胃癌内視鏡診療の進歩	山本 頼正	1629～1639
(2) 胃がん検診の歴史と現状、未来予測	山道 信毅	1640～1646
(3) 十二指腸腫瘍内視鏡診療		
—40 年を振り返って	角嶋 直美・三浦 裕子 大木 大輔・水谷 浩哉 辻 陽介・藤城 光弘	1647～1652
(4) 大腸腫瘍の内視鏡診断・治療および		
大腸がん検診の進歩と展望	松田 尚久	1653～1658
(5) 炎症性腸疾患のこれまでとこれから	加藤 順・太田 祐樹 堀尾 亮輔・對田 尚	1659～1664
(6) 肝疾患診療の歴史と進歩	四柳 宏	1665～1670
(7) 胆膵疾患に対する消化器内科診療の進歩	中井 陽介	1671～1676

(8) 胆膵外科の40年とこれから	佐田 尚宏	1677~1681
-------------------	-------	-----------

|||||内視鏡の読み方(連載)|||||

Vol. 40 No. 1			
Cronkhite-Canada 症候群と消化管ポリポースの鑑別	正谷 一石・大隅 瞬 深川 一史・保坂 祥介 新井 富生・小野 敏嗣	121~126	
Vol. 40 No. 2			
潰瘍性大腸炎関連腫瘍の診断とサーベイランス	石川 直樹・坂本 琢 秋山慎太郎・大和万里子 松原 大祐・土屋輝一郎	257~262	
Vol. 40 No. 3			
組織型の予測と深達度診断が困難であった組織混在型早期胃癌の1例	重久友理子・内多 訓久		
			窪田 綾子・岩崎 丈紘 岡崎三千代・頼田 顕辞 373~378
Vol. 40 No. 5			
UL 合併早期胃癌診断のピットフォール	三角 宜嗣・岸野真衣子 野中 康一	603~606	
Vol. 40 No. 6			
異型度の異なる領域を NBI 併用拡大観察で認識しえた早期胃癌の1例	山本 信・中西 宏佳 吉田 尚弘・土山 寿志 津山 翔・湊 宏 辻 重継	699~702	

|||||講 座(連載)|||||

Vol. 40 No. 10		
上部消化管腫瘍における患者紹介の極意 一クリニック、市中病院から大学病院等の高次医療機関への紹介	山本 頼正	1304~1306

|||||「胃炎の京都分類」の使い方(連載)|||||

Vol. 40 No. 3			Vol. 40 No. 9	
第27回 H. pylori 未感染での胃底腺粘膜と幽門腺粘膜の血管像について	八木 一芳	379~382	第32回 地図状発赤とフジツボ様病変の関係は？	春間 賢・砂金 彩 村尾 高久・眞部 紀明 綾木 麻紀・鎌田 智有 1201~1206
Vol. 40 No. 4			Vol. 40 No. 10	
第28回 H. pylori 未感染における畳の目所見とは	秋山 直・三宅 一昌 谷平 哲哉・諏訪 達志	481~486	第33回 好酸球性胃炎の内視鏡所見にはどのようなものがあるのか	藤原 靖弘 1289~1294
Vol. 40 No. 5			第34回 好酸球性胃炎は内視鏡的にどのように診断するのか	石村 典久 1295~1300
第29回 H. pylori 除菌後に RAC はどこまで回復するのか	土肥 統・落合都萌子 向井 啓起・瀬谷真由子 山内 克真・岩井 直人	595~598	Vol. 40 No. 11	
Vol. 40 No. 6			第35回 残胃癌とは	村尾 高久・春間 賢 砂金 彩・鎌田 智有 1405~1410
第30回 PPI/P-CAB 胃症における胃底腺ポリープの特徴はあるのか	宮本 秀一	695~698	Vol. 40 No. 12	
Vol. 40 No. 7			第36回 H. pylori 現感染胃粘膜の内視鏡診断(総論)	鎌田 智有・勝又 諒 砂金 彩・村尾 高久 1495~1500
第31回 H. pylori 感染性胃炎・自己免疫性胃炎・PPI/P-CAB 胃症の過形成性ポリープには違いがあるのか	丸山 保彦	799~802	第37回 H. pylori 未感染胃粘膜の内視鏡診断(総論)	加藤 元嗣・津田 桃子 松本 美櫻 1501~1505

||||| 消化器内科医が知っておくべき低侵襲手術 (連載) |||||

Vol. 40 No. 1					水間 正道・中川 圭	
第 4 回 結腸・直腸癌に対する低侵襲手術					海野 倫明	685～689
	金光 幸秀・加藤 岳晴			第 7 回 膵疾患に対する低侵襲手術		
	永田 洋士・高見澤康之				加藤 宏之・志村 正博	
	森谷弘乃介・塚本 俊輔	116～120			浅野 之夫・加藤悠太郎	
Vol. 40 No. 4					花井 恒一・橋本 千樹	
第 5 回 肝疾患に対する低侵襲手術					堀口 明彦	690～694
	阿部 学・河口 義邦			Vol. 40 No. 7		
	長谷川 潔	487～494		第 8 回 ヘルニア手術に対する低侵襲手術		
Vol. 40 No. 6					蜂須賀丈博	803～806
第 6 回 胆道疾患に対する低侵襲手術						
	三浦 孝之・石田 晶玄					

||||| 見落とし症例から学ぶ胃癌内視鏡検査 (連載) |||||

Vol. 40 No. 1				Vol. 40 No. 9		
一連載を始めるにあたって				症例 6 見直して認識できる病変		
	山本 頼正	112～115			片桐 敦	1197～1200
Vol. 40 No. 2				Vol. 40 No. 10		
症例 1 見直して認識できる病変				症例 7 病変と捉えるか, 良性のヘマチンと捉え		
	東畑美幸子	253～256		るか	平澤 欣吾	1301～1303
Vol. 40 No. 3				Vol. 40 No. 11		
症例 2 見直して認識できない病変				症例 8 再検査, ESD 後フォローでも見落とされ		
	吉田詠里加	368～372		た病変	須藤理佐子・草野 央	
Vol. 40 No. 5					田邊 聡	1400～1403
症例 3 見直して認識できる病変				Vol. 40 No. 12		
	大林 友彦	599～602		症例 9 見直して認識できない病変		
Vol. 40 No. 6					高橋 徹也・田村 聡	
症例 4 病変はどこに					細川 治・熊谷 二郎	1487～1490
	熊澤 佑介・平澤 俊明	680～684		症例 10 存在診断の誤りによる見逃し症例		
Vol. 40 No. 7					小田島慎也	1491～1493
症例 5 見直して認識できない病変						
	吉田 尚弘・土山 寿志	795～798				

||||| 学会だより |||||

Vol. 40 No. 1			JDDW2024 第 62 回 日本消化器がん検診学会大会		
JDDW2024 第 22 回 日本消化器外科学会大会			岡庭 信司	252	
	瀧口 修司・齊藤 健太	76	Vol. 40 No. 3		
Vol. 40 No. 2			JDDW2024 第 66 回 消化器病学会大会		
JDDW2024 第 108 回 日本消化器内視鏡学会総会			上野 義之	298	
	田中 聖人	168	JDDW2024 第 28 回 日本肝臓学会大会		
			加藤 直也	354	

ゲストエディター —————

吉田 雅博 (No. 4), 伊藤 鉄英 (No. 5), 寺井 崇二 (No. 7, No. 9), 正宗 淳 (No. 8),
 徳永 健吾 (No. 10), 藤谷 幹浩 (No. 11), 飯塚 敏郎 (No. 13)